

成田空港「第2の開港」を支える  
シームレスな高規格道路アクセスの実現に関する  
要 望 書

令和8年2月9日

# 成田空港「第2の開港」を支える シームレスな高規格道路アクセスの実現に関する要望

日本のゲートウェイである成田空港を核とする機能強化は、わが国全体の競争力を左右する国家プロジェクトであり、アジアの主要空港に比肩するグローバルハブ空港として機能させるためには、空港アクセスを支える基盤インフラを戦略的に構築することが急務となっています。その際、成田空港と羽田空港を首都圏空港として一体で捉え、互いに連携・補完を図る視点が重要であり、その実現には羽田空港や首都圏と成田空港をつなぐ広域道路ネットワークの充実強化や高規格道路へアクセスする県道等の改善などを進め、「第2の開港」に伴う効果を広域的に波及させるよう、ネットワークを最大限活用し、空港アクセスの抜本的な高速化、多重化に取り組む必要があります。

こうした空港の機能強化を踏まえた今後の広域道路ネットワークの整備の方針を示すため、令和7年11月20日に開催された令和7年度第1回千葉県道路協議会において、「新しい成田空港を支える高規格道路ネットワーク構築の基本方針」がとりまとめられたところです。

これまで、千葉県及び北千葉道路・新湾岸道路関係市は、この基本方針に基づき、

- ・北千葉道路や新湾岸道路の整備促進による「成田と都心・羽田の連結強化につながる新たなネットワークの形成」
- ・料金水準の整理・統一を進めることにより、経路にかかわらず円滑なアクセスを確保し、その収入を含め、「有料道路事業を活用した新たなネットワークの整備の加速」
- ・成田空港・羽田空港を結ぶ新たな軸となる「圏央道・アクアライン軸の強化」
- ・シームレスなサービスレベルを確保するための「高規格道路アクセスの改善」
- ・高速道路の規制速度の見直し等による「道路規格にあったパフォーマンスの実現」

を提言してまいりました。

とりわけ、成田空港「第2の開港」を支える戦略的な基盤インフラとなる北千葉道路については、有料道路事業を活用できる環境を早期に整えることが重要であり、また、「高規格道路アクセスの改善」にあたっては、国道14号、国道296号、県道船橋我孫子線、県道船橋行徳線などの拠点アクセスの円滑化や高規格道路のインターチェンジ周辺の県道等における渋滞ボトルネックの解消に、スピード感を持って取り組むためには、速やかな国による支援が不可欠となっています。

つきましては、下記の事項について、特段のご配慮を賜りますよう、ここに要望いたします。

## 記

- 成田空港へのアクセス強化や空港周辺地域の活性化を図るため、成田空港周辺インターチェンジ（仮称）について、地域活性化インターチェンジとして、早期に連結許可を行い、インターチェンジへのアクセス道路について補助事業として採択し、新規事業化すること。
- シームレスなサービスレベルを確保し、千葉港等の拠点アクセスの円滑化や高規格道路のインターチェンジ周辺一般道路における渋滞ボトルネックの解消が図られるよう、国道296号等の対策を講じるため、早期に補助事業として採択し、新規事業化すること。
- 都市計画道路磯辺茂呂町線、都市計画道路美浜長作町線、都市計画道路東習志野実粋線、都市計画道路菊田台谷津線などのインターチェンジへのアクセス道路についても着実に整備できるよう必要な予算を社会資本整備総合交付金等により重点配分すること。

千葉県知事 熊谷俊人

成田国際空港株式会社 代表取締役社長 藤井直樹

千葉県道路整備促進協議会 会長 池田和彦